令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【河合小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 ・主体的に学習に取り組む態度の涵養 ・目的に応じて、適切に情報を活用する能力の育成
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	「書き込み式ドリル」や「ドリルパーク」等を活用し、基本的な漢字・計算等の反復・習熟に取り組む時間を設定する【週1回の朝学習で実施】。カリキュラム・マネジメントを充実させ、教科横断的に学びをつなぎ、知識等の定着を図る【通年】。児童が自ら学習履歴を確認し、それを生かし、個別に学習計画を立てる時間を設定する【月に1・2度の自主学習タイムで実施】。根拠を明確にして自分の考えを表現することができるような指導を行う【通年】。

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語科では、全国・県平均と比較して、選択式問題での正答率は概ね良好な推移を見せる一方、複数の情報を統合して引用しながら自身の考えを記述する条件付き記述問題において正答率が低下する傾向がみられる。また、算数科では、計算問題や基本的な図形・数量の知識を問う設問では全国・県平均と同等以上の正答率を示している一方で、日常の文脈における立体の性質の活用や、割合・図表の比較理由を説明する記述問題で正答率が低い傾向がみられる。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	国語科では、本文や資料の意図を正しく読み取る基盤的な読解力は身に付いているものの、抽出した情報と自分の考えを根拠立てて論理的に再構築し、文字数や条件に合わせて文章化することに苦手意識があると考えられる。また、算数科では、既習の公式や解法の適用はスムーズに行える反面、問題の条件から必要な数値を自力で抽出し、その立論過程や比較根拠を筋道立てて言葉や式で表現・説明する活用力に課題を抱えている様子が窺える。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	「書き込み式ドリル」や「ドリルパーク」等を活用した基本的な漢字・計算等の反復・習熟に取り組む時間に加え、授業のはじめや終わりの短時間での習熟学習を行った。また、カリキュラム・マネジメントを充実させ、児童の知識等の定着等資質能力の向上を図った。さらに、高学年では、児童が自ら学習履歴を確認し、それを生かし、個別に学習計画を立てる時間を設定し自主学習に取り組んだ。根拠を明確にして自分の考えを表現することができるような指導を継続的に行っている。
	A	
⇓		
学力向上策の見直し	これまでの取組を継続して取り組むとともに、新たに導入されたアプリケーションである「Qubena（キュビナ）」を積極的に導入し、児童の個別最適な学びをさらに充実させていく。また、「文章の中から必要な情報を抽出し、それらを根拠として論理的に表現・説明する力」を養うために、日常の授業の中で児童が判断したり表現したりする場面を意図的に設定し授業実践を行っていく。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）